



認知症オレンジパートナー 北風祥子さんにお話を伺いました。

※認知症オレンジパートナーは、認知症の理解者(認知症サポーター)にとどまることなく、より積極的で、実践的な活動を行うボランティアです。

今回、「認知症のこと」「武丸オレンジカフェとの関わり」などについて伺いました。

【自己紹介】

皆様、初めまして。私は、認知症オレンジパートナーのほか、武山地区の主任児童委員をしております北風祥子と申します。

民生委員児童委員の事業の中では、特に子どもに焦点を当て、子育て支援に関わっています。また私は、認知症対応型デイサービスに週3日程度働き、看護師の資格をもって、機能訓練指導員として関わらせていただいています。



【武丸オレンジカフェとの関わりについて】

武丸オレンジカフェは、毎月第3土曜日午前10時から12時までの間、武1丁目にあるサンライズファミリークリニックさんにスペースをお借りして開催している認知症カフェです。7月で9回目の開催を迎えます。

このカフェは、市主催の「西地区版 認知症に関する学習会」に参加された「かながわオレンジ大使(認知症本人大使)」の伊藤さんが、「武山地区に認知症カフェをつくりたい」という想いを参加の皆さんにお話されたところからはじまります。その想いに賛同し、学習会に参加していた看護師等が中心となって、昨年11月から立ち上げに向けた打ち合わせを行い、試行錯誤しながら現在に至っています。



SNSなどでカフェの参加者を募ることはしていませんが、前記の学習会に参加された方々が、口コミで拡散してくださり、お陰様で回を追うごとに参加人数が増えてきております。これらの機運は、私たちがその先に目指している「例え、認知症になったとしても、普段から慣れ親しんだ理解者が周りにいれば、このまちで暮らしていける」へ繋がるものと思っています。

【認知症の人への接し方について】

認知症になると、「怖くて外出もできない」、「家族も反対して外に出させない」などといったことを聞くことがあります。それでよいのでしょうか。もう一度自分事と思って考えてみてください。実は、私の母は認知症でした。その間8年に及びましたが、その時の私は、管理、監督、押し付けなど、今思えば母の尊厳を損なうこともしてしまったとの反省があります。その後、認知症の人の対応の仕方など学ぶ機会も経て、「本人が出来ることは取り上げない」という成功体験に基づいた接し方の大切さを痛感しました。

今の職場では、例え認知症になったとしても、「出来ることを続けられる環境づくり」に重きを置いています。包丁で食材の裁断、針を使って人形作り、テーブルクロス作り、畑作業など積極的にしてもらっています。特に、野菜を育て収穫したものを皆で食する幸せは何ものにも代えがたいものです。